

# 配信資料に関する技術情報（気象編）第33号

## 一 季節予報の電文形式等の10月からの変更について

気象審議会第20号答申「今後の気候情報のあり方について」（平成9年10月）に従って、季節予報の発表予報文を確率表現に重点を置いたものに変更しているところです。本年3月には3か月予報、暖・寒候期予報について実施し、本年10月に1か月予報についても実施する計画です。これに伴い季節予報の電文形式を変更しますので、利用者におかれましては対処方よろしくお願い致します。

なお、実施日は平成10年10月1日とし、今回の電文形式の主な変更点と業務改善事項は以下の通りです。

### 1. 季節予報電文の主な変更点（別紙1参照）

- (1) かな漢字電文（ヘッダー：キツヨク1、キヨキツヨク1）は、予報文の表現改善や計算機処理への適合等を考慮し、電文の配置、記述内容及び見出しの設定を変更します。
- (2) カナ電文（ヘッダー：キツヨク、キヨキツヨク）を廃止します。

### 2. 予報発表日時（電文の配信日時）の変更

- (1) 1か月予報の発表時刻を現行の16時から14時30分に繰り上げます。
- (2) 3か月予報の原則の発表日（20日）が金曜日（1か月予報発表日）または土曜日にあたった場合には、3か月予報発表日を月曜日に繰り下げます。月曜日が祝日の場合には火曜日に繰り下げます。

### 3. 予報文の変更（別紙2参照：気象庁での予報文例）

#### (1) 予報表現の改善

- ① 確率で表現した予報を図で示すことにより、視覚的に分かりやすくします。
- ② 季節予報における確率表現の理解を助けるために参考資料等を付け加えます。
- ③ 予報の内容が日々の天気ではなく「天候の見通し」であることを明記します。

#### (2) 1か月予報における予報要素・内容の拡充

- ① 日本海側の「降雪量」予報を始めます。  
1か月間の降雪量を「少ない」「平年並」「多い」の3つの階級に分け、各階級の予想される確率を10%単位で示します。
- ② 可能な場合には、“曇りや雨の日が多い”など天候に関する内容を記述します。  
また、少雨、低温あるいは日照不足など被害の発生に結びつくような現象が続いているときにはその見通しについても記述します。

## 季節予報の電文形式等について

## 1 季節予報のデータ種類コード

全般季節予報、地方季節予報の通報に用いるデータ種類コードは、それぞれセツヨク1、チヨクセツヨク1とする。

2 バイトコード文字の電文（「仮名漢字電文」）を用いて通報する。

## 2 電文で使用する文字

電文において本文では、すべて2バイトコード文字を用いる。本文以外は、1バイトコード文字を使用する。

以下において、「▽」と記されたところで必ず1回以上の改行を行い、「□」と記されたところでは1つ以上の空白を含める。また、記述することが指定された単語では、その途中で改行、空白等の文字を挿入してはならない。

## 3 季節予報本文の通報形式

以下、全般および地方季節予報の形式は同じとする。

1 か月予報本文の通報形式は、次の事項で構成する。

- (1) 標題行……………予報の種類を示す。
- (2) 予報期間行……………予報期間の月日を示す。
- (3) 発表年月日行……………発表した日の年月日を示す。
- (4) 発表官署行……………発表官署を示す。
- (5) 向こう1か月の確率予報行……………向こう1か月の確率予報を示す。
- (6) 週別予報行……………一週目、二週目及び三から四週目の予報を示す。
- (7) 天候行……………顕著な天候が予想される場合等に必要に応じて示す。必要がなければこの行は含めない。
- (8) 発表予定行……………次回季節予報発表日等を示す。

3 か月予報、寒候期予報及び暖候期予報本文の通報形式は、上記(1)～(4)及び次の事項で構成する。

- (5) 3か月確率予報行……………予報期間内の3か月について確率予報を示す。
- (6) 予報単位別予報行……………予報文を予報単位期間ごとに示す。
- (7) 要素別予報行……………各予報要素の階級予報を示す。寒候期予報および暖候期予報はこの項を除く。
- (8) 発表予定行……………次回季節予報発表日等を示す。

## 4 1か月予報本文の構成

各行の取り扱いは次の通りとする。

## (1) 標題行

「発表官署の当該地方予報区名□1か月予報▽」とする。

ただし、九州北部地方予報区に限り当該地方予報区名を「九州北部地方（山口県を含む）」とする。

なお、「予報区」という言葉は省略する。また、全般季節予報の場合には「全般□1か月予報▽」とする。

(例) 関東甲信地方□1か月予報▽

## (2) 予報期間行

「予報期間□」に続けて予報期間の月日を示し、改行する。

(例) 予報期間□3月9日から4月8日▽

## (3) 発表年月日行

「発表年月日▽」とする。

ただし、発表年は元号を用い、月日の表示は「月」、「日」を用いる。

(例) 平成11年3月8日▽

#### (4) 発表官署行

「発表官署□発表▽」とする。ただし、気象庁本庁の場合は、「気象庁気候・海洋気象部□発表▽」とする。

(例) 仙台管区気象台□発表▽

#### (5) 向こう1か月の確率予報行

「<向こう1か月>▽<確率>▽」とし、次に「要素□地域□低い(少ない) □ 平均並□高い(多い) % ▽」と記述し、以下の順で予想される各階級の確率(向こう1か月)を示す。

要素名□予報対象地域名□低い(少ない) 確率□平均並の確率□高い(多い) 確率▽

ただし、要素名は、別表中の「予報要素名」のいずれかを、予報対象地域名は、別表中の「予報対象地域名」を用いる。また、「確率」の表現は、%単位とし、順に低い(少ない) 確率、平均並の確率、高い(多い) 確率を記す。

次に、「<概要>▽」と記し、確率予報の概要を平文で記述し改行する。

(例)

<向こう1か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い(少ない) □ 平均並□高い(多い) % ▽

気温□ 東北地方□ 50□ 40□ 10▽

降水量□ 東北日本海側□ 20□ 30□ 50▽

降水量□ 東北太平洋側□ 50□ 30□ 20▽

日照時間□東北日本海側□ 50□ 30□ 20▽

日照時間□東北太平洋側□ 20□ 50□ 30▽

降雪量□ 東北日本海側□ 20□ 30□ 50▽

<概要>▽

向こう1か月の気温は低い可能性が大きく、その確率は50%、高い可能性は10%と小さい見込みです。降水量は日本海側では多い可能性が大きく、その確率は50%、太平洋側では少ない可能性が大きく、その確率は50%です。日照時間は日本海側では少ない可能性が大きく、その確率は50%、太平洋側では平均並の可能性が大きく、その確率は50%です。また、日本海側の降雪量は多い可能性が大きく、その確率は50%です。▽

#### (6) 週別予報行

「<可能性の大きな気温経過>▽要素□地域□階級▽」とし、発表した要素ごとに、次の順で記述する。「予報単位期間名□要素名□予報対象地域名□予報階級▽」

ただし、要素名は、別表中の「予報要素名」のいずれかを、予報対象地域名は「予報対象地域名」を用いる。

「予報階級」の表現は、

高い(多い) は+ (プラス記号)

平均並は0 (アラビア数字の零)

低い(少ない) は- (マイナス記号) で示す。

地域細分しない場合にはその階級を、地域細分する場合には別表の予報対象地域名の順に階級を記述する。

(例) <可能性の大きな気温経過>▽

	要素□	地域□	階級▽
1週目□	気温□	東北北部□	0▽
1週目□	気温□	東北南部□	-▽
2週目□	気温□	東北地方□	0▽
3~4週目□	気温□	東北地方□	-▽

#### (7) 天候行

「<天候の特徴>▽」とし、その内容を平文で記述し改行する。

#### (8) 発表予定行

「<次回発表予定>▽」とし、続いて次回季節予報発表日等を平文で記述し改行する。

## 5 3か月予報、寒候期予報および暖候期予報本文の構成

各行の取り扱いは次の通りとする。

### (1) 標題行

「発表官署の当該地方予報区名□予報の種類▽」とする。ただし、九州北部地方予報区に限り当該地方予報区名を「九州北部地方（山口県を含む）」とする。なお、「予報区」という言葉は省略する。

また、全般季節予報の場合には「全般□予報の種類▽」とする。

予報の種類は、「3か月予報」、「寒候期予報」または「暖候期予報」のいずれかとする。

(例) 関東甲信地方□3か月予報▽

### (2) 予報期間行

「予報期間□」に続けて予報期間の月を示し改行する。

(例) 予報期間□3月から5月▽

### (3) 発表年月日行

「発表年月日▽」とする。

ただし、発表年は元号を用い、月日の表示は「月」、「日」を用いる。

(例) 平成11年3月20日発表▽

### (4) 発表官署行

「発表官署□発表▽」とする。ただし、気象庁本庁の場合は、「気象庁気候・海洋気象部□発表▽」とする。

(例) 仙台管区気象台□発表▽

### (5) 3か月確率予報行

「<3か月>▽<確率>▽」とし「要素□地域□低い(少ない) □ 平均並□高い(多い) %▽」と記述し、以下の順で予想される各階級の確率(3か月)を示す。

要素名□予報対象地域名□低い(少ない) 確率□平均並の確率□高い(多い) 確率▽

ただし、要素名は、別表中の「予報要素名」のいずれかを、予報対象地域名は、別表中の「予報対象地域名」を用いる。「確率」の表現は、%単位とし、順に低い(少ない) 確率、平均並の確率、高い(多い) 確率を記す。

なお、予報対象とする3か月は暖候期予報においては6月から8月、寒候期予報においては12月から2月とする。

次に、「<概要>▽」と記し、確率予報の概要を平文で記述し改行する。

(例)

<3か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い(少ない) □ 平均並□高い(多い) %▽

気温□ 近畿日本海側□ 50□ 30□ 20▽

気温□ 近畿太平洋側□ 40□ 30□ 30▽

<概要>▽

3か月平均気温は太平洋側、日本海側とも低い可能性が最も大きく、その確率は日本海側で50%です。太平洋側では40%で、平均並と高い確率も30%あります。▽

### (6) 予報単位別予報行

「<可能性の大きな天候見通し>▽」とし、つづいて予報単位期間ごとに「予報単位期間名□」とし、その内容を平文で記述し改行する。

(例)

<可能性の大きな天候見通し>▽

1 1月□太平洋側では平均と同様に天気は周期的に変わるとでしょう。日本海側では平均と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

1 2月□太平洋側では平均と同様に晴れの日が多いとでしょう。日本海側では平均と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

1 月□太平洋側では平均と同様に晴れの日が多いとでしょう。日本海側では平均と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

▽

3か月間降水量は平年並の見込みです。▽

(7) 要素別予報行（寒候期および暖候期予報はこの行を除く）

「<要素別予報>▽」、「要素□地域□第1月目の月□第2月目の月□第3月目の月□3か月▽」とし、発表した要素ごとに、次の順で記述する。

「要素名□予報対象地域名□第1月目の予報階級□第2月目の予報階級□第3月目の予報階級□第1から第3までの3か月の予報階級▽」

ただし、要素名は、別表中の「予報要素名」のいずれかを用い、3か月確率予報行で確率予報を行った要素については「3か月の予報階級」を記述しない。予報対象地域名は、別表に示すものを用いる。

「予報階級」の表現は、

高い（多い）は+（プラス記号）

平年並は0（アラビア数字の零）

低い（少ない）は-（マイナス記号）で示す。

地域細分しない場合にはその階級を、地域細分する場合には別表の予報対象地域名の順に階級を記述する。

（例）

<要素別予報>▽

要素□	地域□	1 1月□	1 2月□	1月□	3か月▽
気温□	東北地方□	0□	0□	0▽	
降水量□	東北日本海側□	0□	0□	0□	0▽
降水量□	東北太平洋側□	+□	0□	0□	0▽

(8) 発表予定行

「<次回発表予定>▽」とし、続いて次回季節予報発表日等を平文で記述し改行する。

## 別表

(1) 季節予報の電文での予報要素名

予報の種類	予報要素名
1か月予報	気温、降水量、日照時間、降雪量
3か月、寒・暖候期予報	気温、降水量、日照時間、降雪量

(2) 地方季節予報電文で用いる予報対象地域名

予報対象地域名	地方予報区名	担当官署
北海道地方 北海道日本海側 北海道オホーツク海側 北海道太平洋側	北海道地方予報区	札幌管区气象台
東北地方 東北日本海側 東北太平洋側 東北北部 東北南部	東北地方予報区	仙台管区气象台
関東甲信地方	関東甲信地方予報区	気象庁本庁
東海地方	東海地方予報区	名古屋地方气象台
北陸地方	北陸地方予報区	新潟地方气象台
近畿地方 近畿日本海側 近畿太平洋側	近畿地方予報区	大阪管区气象台
中国地方 山陰 山陽	中国地方予報区	広島地方气象台
四国地方	四国地方予報区	高松地方气象台
九州北部地方（山口県を含む）	九州北部地方予報区	福岡管区气象台
九州南部地方 九州南部 奄美地方	九州南部地方予報区	鹿児島地方气象台
沖縄地方	沖縄地方予報区	沖縄气象台

(3) 全般季節予報電文で用いる予報対象地域名（広域区分）

予報対象地域名 （広域区分）	該当する地方予報の予報対象地域名
北日本 北日本日本海側 北日本太平洋側	北海道地方、東北地方 北海道日本海側、北海道オホーツク海側の一部、東北日本海側 北海道太平洋側、北海道オホーツク海側の一部、東北太平洋側
東日本 東日本日本海側 東日本太平洋側	関東甲信地方、北陸地方、東海地方 北陸地方 関東甲信地方、東海地方
西日本 西日本日本海側 西日本太平洋側	近畿地方、中国地方、四国地方、九州北部地方、九州南部 近畿日本海側、山陰、九州北部地方 近畿太平洋側、山陽、四国地方、九州南部
南西諸島	奄美地方、沖縄地方

# 電文例1 地方季節予報（1か月予報）仮名漢字電文

チホリセツヨホ1 センガイ

東北地方1か月予報▽ ←以下本文  
予報期間2月9日から3月8日▽  
平成××年×月×日▽  
仙台管区気象台発表▽

<向こう1か月>▽

<確率>▽

要素 <input type="checkbox"/>	地域 <input type="checkbox"/>	低い（少ない） <input type="checkbox"/>	平年並 <input type="checkbox"/>	高い（多い） <input type="checkbox"/>	%▽
気温 <input type="checkbox"/>	東北地方 <input type="checkbox"/>	50 <input type="checkbox"/>	40 <input type="checkbox"/>	10 <input type="checkbox"/>	▽
降水量 <input type="checkbox"/>	東北日本海側 <input type="checkbox"/>	20 <input type="checkbox"/>	30 <input type="checkbox"/>	50 <input type="checkbox"/>	▽
降水量 <input type="checkbox"/>	東北太平洋側 <input type="checkbox"/>	50 <input type="checkbox"/>	30 <input type="checkbox"/>	20 <input type="checkbox"/>	▽
日照時間 <input type="checkbox"/>	東北日本海側 <input type="checkbox"/>	50 <input type="checkbox"/>	30 <input type="checkbox"/>	20 <input type="checkbox"/>	▽
日照時間 <input type="checkbox"/>	東北太平洋側 <input type="checkbox"/>	20 <input type="checkbox"/>	50 <input type="checkbox"/>	30 <input type="checkbox"/>	▽
降雪量 <input type="checkbox"/>	東北日本海側 <input type="checkbox"/>	20 <input type="checkbox"/>	30 <input type="checkbox"/>	50 <input type="checkbox"/>	▽

<概要>▽

向こう1か月の気温は低い可能性が大きく、その確率は50%、高い可能性は10%と小さい見込みです。降水量は日本海側では多い可能性が大きく、その確率は50%、太平洋側では少ない可能性が大きく、その確率は50%です。日照時間は日本海側では少ない可能性が大きく、その確率は50%、太平洋側では平年並の可能性が大きく、その確率は50%です。また、日本海側の降雪量が多い可能性が大きく、その確率は50%です。▽

<可能性の大きな気温経過>▽

	要素 <input type="checkbox"/>	地域 <input type="checkbox"/>	階級▽
1週目 <input type="checkbox"/>	気温 <input type="checkbox"/>	東北北部 <input type="checkbox"/>	-▽
1週目 <input type="checkbox"/>	気温 <input type="checkbox"/>	東北南部 <input type="checkbox"/>	0▽
2週目 <input type="checkbox"/>	気温 <input type="checkbox"/>	東北地方 <input type="checkbox"/>	-▽
3～4週目 <input type="checkbox"/>	気温 <input type="checkbox"/>	東北地方 <input type="checkbox"/>	-▽

<天候の特徴>▽

気温の高い状態が続いていましたが、今後は、気温は低く、日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い見込みです。▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は2月15日▽  
3か月予報：2月××日（×曜日）14時▽  
暖候期予報：3月××日（×曜日）14時▽

電文例2 全般季節予報（1か月予報）仮名漢字電文

北緯30度 東経130度

全般□1か月予報▽

←以下本文

予報期間□1月9日から2月8日▽

平成××年×月×日▽

気象庁気候・海洋気象部□発表▽

<向こう1か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い（少ない）□ 年並□ 高い（多い）%▽

気温□ 北日本□ 10□ 40□ 50▽

気温□ 東日本□ 20□ 50□ 30▽

気温□ 西日本□ 50□ 30□ 20▽

気温□ 南西諸島□ 40□ 30□ 30▽

降水量□ 北日本日本海側□ 50□ 40□ 10▽

降水量□ 北日本太平洋側□ 40□ 30□ 30▽

降水量□ 東日本日本海側□ 30□ 40□ 30▽

降水量□ 東日本太平洋側□ 20□ 30□ 50▽

降水量□ 西日本日本海側□ 10□ 40□ 50▽

降水量□ 西日本太平洋側□ 30□ 30□ 40▽

降水量□ 南西諸島□ 30□ 40□ 30▽

日照時間□ 北日本日本海側□ 40□ 30□ 30▽

日照時間□ 北日本太平洋側□ 50□ 30□ 20▽

日照時間□ 東日本日本海側□ 30□ 40□ 30▽

日照時間□ 東日本太平洋側□ 30□ 50□ 20▽

日照時間□ 西日本日本海側□ 20□ 50□ 30▽

日照時間□ 西日本太平洋側□ 30□ 40□ 30▽

日照時間□ 南西諸島□ 20□ 50□ 30▽

降雪量□ 北日本日本海側□ 40□ 30□ 30▽

降雪量□ 東日本日本海側□ 30□ 40□ 30▽

降雪量□ 西日本日本海側□ 20□ 30□ 50▽

<概要>▽

平均気温は北日本では高い、東日本では年並、西日本と南西諸島では低い可能性が大きいでしょう。降水量は北日本で少なく、東日本太平洋側と西日本で多く、東日本日本海側と南西諸島で年並の可能性が大きいでしょう。日照時間は北日本で少なく、その他の地方は年並の可能性が大きいでしょう。また、降雪量は北日本日本海側で少なく、東日本日本海側で年並、西日本日本海側で多い可能性が大きいでしょう。▽

<可能性の大きな気温経過>▽

要素□ 地域□ 階級▽

1週目□ 気温□ 北日本□ +▽

1週目□ 気温□ 東日本□ +▽

1週目□ 気温□ 西日本□ 0▽

1週目□ 気温□ 南西諸島□ 0▽

2週目□ 気温□ 北日本□ +▽

2週目□ 気温□ 東日本□ 0▽

2週目□ 気温□ 西日本□ -▽



2週目□ 気温□南西諸島□0▽

3～4週目□ 気温□北日本□ 0▽

3～4週目□ 気温□東日本□ 0▽

3～4週目□ 気温□西日本□ -▽

3～4週目□ 気温□南西諸島□-▽

<天候の特徴>▽

西日本では寒気の影響で気温が低いでしょう。▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は×月××日▽

3か月予報：×月×日(×曜日) 14時▽

### 電文例3 地方季節予報（3か月予報）仮名漢字電文

チウキツヨク1 センダイ

東北地方□3か月予報▽ ←以下本文  
予報期間□11月から1月▽  
平成××年××月××日▽  
仙台管区气象台□発表▽

<3か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い（少ない）□ 平年並□ 高い（多い）%▽  
気温□ 東北地方□ 30□ 40□ 30▽

<概要>▽

3か月平均気温は平年並の可能性が最も大きく、その確率は40%です。  
▽

<可能性の大きな天候見通し>▽

11月□太平洋側では天気は平年と同様に周期的に変わるでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

12月□太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

1月□太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

▽

3か月間降水量は平年並の見込みです。▽

<要素別予報>▽

要素□ 地域□	11月□	12月□	1月□	3か月▽
気温□ 東北地方□	0□	0□	0▽	
降水量□ 東北日本海側□	0□	0□	0□	0▽
降水量□ 東北太平洋側□	+□	0□	0□	0▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は10月×日▽

3か月予報：×月×日（×曜日）14時▽

## 電文例4 全般季節予報（3か月予報）仮名漢字電文

セツヨク1 抄切

全般□3か月予報▽

←以下本文

予報期間□11月から1月▽

平成××年××月××日▽

気象庁気候・海洋気象部□発表▽

<3か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い（少ない）□ 平年並□ 高い（多い）%▽

気温□ 北日本□ 30□ 50□ 20▽

気温□ 東日本□ 30□ 40□ 30▽

気温□ 西日本□ 30□ 40□ 30▽

気温□ 南西諸島□ 30□ 40□ 30▽

<概要>▽

この期間の平均気温は各地とも平年並の可能性が最も大きく、その確率は北日本で50%、その他の地方では40%です。

<可能性の大きな天候見通し>▽

11月□平年と同様に天気は周期的に変わるでしょう。北、東日本の日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

気温は平年並でしょう。降水量は平年並でしょう。北、東日本の太平洋側では多い見込みです。▽

12月□太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込みです。▽

気温は平年並でしょう。降水量は平年並でしょう。▽

1月□太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込みです。▽

気温は平年並でしょう。降水量は平年並でしょう。▽

▽

3か月間降水量は平年並の見込みでしょう。▽

<要素別予報>▽

要素□ 地域□ 11月□ 12月□ 1月□ 3か月▽

気温□ 北日本□ 0□ 0□ 0▽

気温□ 東日本□ 0□ 0□ 0▽

気温□ 西日本□ 0□ 0□ 0▽

気温□ 南西諸島□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 北日本日本海側□ 0□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 北日本太平洋側□ 0□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 東日本日本海側□ 0□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 東日本太平洋側□ 0□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 西日本日本海側□ 0□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 西日本太平洋側□ 0□ 0□ 0□ 0▽

降水量□ 南西諸島□ 0□ 0□ 0□ 0▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は××月×日▽

3か月予報：×月×日（×曜日）14時▽

## 電文例5 地方季節予報（寒候期予報）仮名漢字電文

秋のちつヨ秋1 セン'イ

東北地方□寒候期予報▽ ←以下本文  
予報期間□11月から3月▽  
平成××年10月9日▽  
仙台管区気象台□発表▽

<3か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い（少ない）□ 平年並□ 高い（多い）%▽  
気温□ 東北地方□ 30□ 40□ 30▽

<概要>▽

冬平均（12月～2月）気温は平年並の可能性が最も大きく、その確率は40%です。▽

<可能性の大きな天候見通し>▽

11月□太平洋側では天気は平年と同様に周期的に変わるでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

12月～3月□太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は10月×日▽  
3か月予報：×月×日（×曜日）14時▽

## 電文例6 全般季節予報（寒候期予報）仮名漢字電文

北帰村1 ｷｼｺ

全般寒候期予報▽

←以下本文

予報期間11月から3月▽

平成××年10月9日▽

気象庁気候・海洋気象部発表▽

<3か月>▽

<確率>▽

要素 地域 低い（少ない） 平年並 高い（多い）%▽

気温 北日本 30 50 20▽

気温 東日本 30 40 30▽

気温 西日本 30 40 30▽

気温 南西諸島 30 40 30▽

<概要>▽

冬平均（12月～2月）の気温は各地とも平年並の可能性が最も大きく、その確率は北日本で50%、その他の地方は40%です。

<可能性の大きな天候見通し>▽

11月天気は平年と同様に数日の周期で変わるでしょう。北、東日本の日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。▽

12月～3月太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。日本海側では平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い見込みです。▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は××月×日▽

3か月予報：×月×日（×曜日）14時▽

## 電文例7 地方季節予報（暖候期予報）仮名漢字電文案

秋ウキツヨホク1 センダイ

東北地方□暖候期予報▽ ←以下本文  
予報期間□4月から9月▽  
平成××年3月10日▽  
仙台管区气象台□発表▽

<3か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い（少ない）□ 平年並□ 高い（多い）%▽  
気温□ 東北地方□ 30□ 50□ 20▽

<概要>▽

夏平均（6月～8月）の気温は平年並の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に低い可能性が大きく、その確率は30%です。

<可能性の大きな天候見通し>▽

4から5月□天気は平年と同様に数日の周期で変わるでしょう。▽

この期間の平均気温は平年並でしょう。▽

降水量は平年並の見込みです。▽

6から9月□6月から7月までは平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

6月から7月までの降水量は平年並の見込みです。その後は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。しかし、天気のぐずつく時期がある見込みです。▽

期間を通して、気温の変動が大きい見込みです。▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は3月×日▽

3か月予報：×月×日（×曜日） 14時▽

## 電文例8 全般季節予報（暖候期予報）仮名漢字電文

牡丹村1 杉功

全般□暖候期予報▽

←以下本文

予報期間□4月から9月▽

平成××年3月10日▽

気象庁気候・海洋気象部□発表▽

<3か月>▽

<確率>▽

要素□ 地域□ 低い（少ない）□ 平年並□ 高い（多い）%▽

気温□ 北日本□ 30□ 50□ 20▽

気温□ 東日本□ 20□ 50□ 30▽

気温□ 西日本□ 20□ 50□ 30▽

気温□ 南西諸島□ 30□ 50□ 20▽

<概要>▽

夏平均（6月～8月）の気温は平年並の可能性が最も大きく、その確率は各地とも50%です。次に北日本と南西諸島では低い、東日本と西日本では高い可能性が大きく、その確率はそれぞれ30%です。

<可能性の大きな天候見通し>▽

4から5月□天気は平年と同様に数日の周期で変わるでしょう。南西諸島では平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。▽

この期間の平均気温は東日本と西日本は高く、その他の地方では平年並でしょう。▽

降水量は平年並の見込みです。▽

6から9月□6月から7月までは平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。6月から7月までの降水量は平年並の見込みです。その後は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。しかし、天気のぐずつく時期がある見込みです。▽

期間を通して、北日本と東日本では気温の変動が大きい見込みです。▽

<次回発表予定>▽

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は3月×日▽

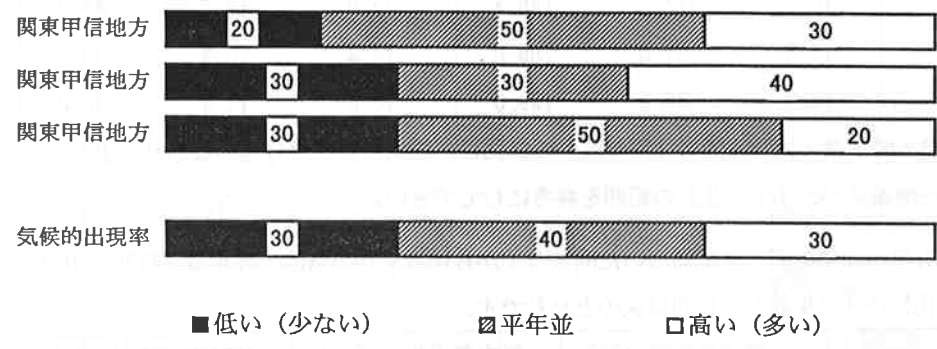
3か月予報：×月×日（×曜日）14時▽

### 関東甲信地方 1か月予報

(XX月XX日からXX月XX日までの天候見通し)

平成XX年XX月XX日  
気象庁 気候・海洋気象部発表

<向こう1か月の気温，降水量，日照時間の各階級の確率（％）>



向こう1か月間の平均気温は平年並の可能性が最も大きく、その確率は50%です。また、高くなる可能性は低くなる可能性を上回っています。降水量は多い可能性が大きく、その確率は40%ですが、平年並や少ない確率も30%あります。日照時間は平年並の可能性が大きく、その確率は50%です。

<可能性の大きな気温経過>

- 1週目 (XX月XX日 (土) からXX月XX日 (金))  
気温 関東甲信地方 平年並
- 2週目 (XX月XX日 (土) ～XX月XX日 (金))  
気温 関東甲信地方 高い
- 3～4週目 (XX月XX日 (土) ～XX月XX日 (金))  
気温 関東甲信地方 平年並

<天候の特徴>

平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

<次回の発表予定>

- 1か月予報 毎週金曜日 14時30分 次回 XX月XX日
- 3か月予報 XX月XX日 (X) 14時00分
- 寒候期予報 XX月XX日 (X) 14時00分



## 【参考資料（平年値，平年並の範囲）】

(1) 平年値（向こう1か月の平均気温，降水量，日照時間と1週目，2週目，3～4週目の平均気温）

	向こう1か月			平均気温(℃)		
	平均気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3～4週目
宇都宮	16.8	141.2	185.5	15.5	16.3	17.4
前橋	17.7	96.7	190.0	16.3	17.2	18.2
熊谷	17.9	108.2	191.7	16.5	17.3	18.5
水戸	16.5	140.7	180.0	15.2	16.0	17.0
銚子	16.9	140.3	187.5	16.0	16.6	17.3
東京	18.7	139.7	181.2	17.5	18.3	19.3
横浜	18.2	154.2	186.7	17.0	17.7	18.7
長野	15.8	81.0	205.0	14.4	15.3	16.4
甲府	17.9	89.0	199.0	16.6	17.3	18.4

なお、気温・降水量・日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1961年～90年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温・降水量・日照時間の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
関東甲信地方	-0.5 ~ +0.4	72 ~ 115	93 ~ 110

(3) この予報期間の1週目・2週目・3～4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3～4週目
関東甲信地方	-0.8 ~ +0.8	-0.7 ~ +0.8	-0.5 ~ +0.6

## 【参考資料（利用上の注意）】

(1) 気温・降水量は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3階級で予報されます。階級の幅は、1961～90年の30年間における各階級の出現率が30%：40%：30%となるように決めてあります。3つの階級の出現率がこれと同じものを「気候的出現率」として、予報の確率表現とともに表示してあります。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合（出現率）を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、6回が適中し4回が適中しないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には大きな確率（50%、60%など）や逆に小さな確率（10%、20%など）を付けられますが、予測資料の統計的な有意性が低い場合には気候的出現率（30%：40%：30%）と同じ確率あるいはそれに近い確率しか付けることができません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

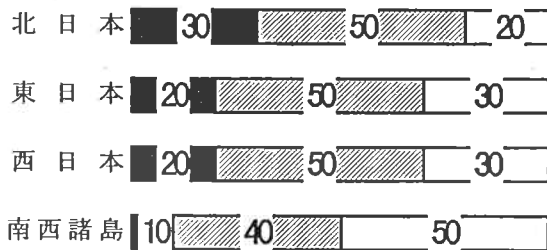
## 全般1か月予報

(X X月X XからX X月X X日までの天候見通し)

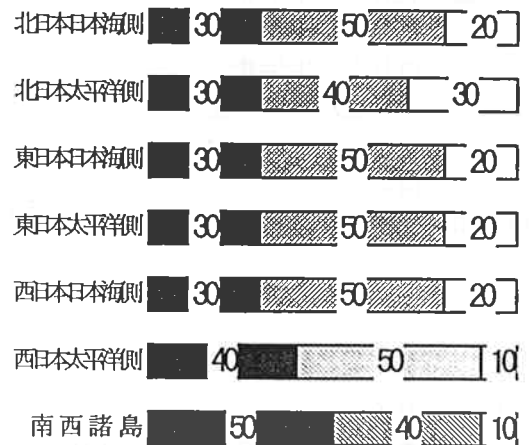
平成X X年X X月X X日  
気象庁 気候・海洋気象部発表

&lt;向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)&gt;

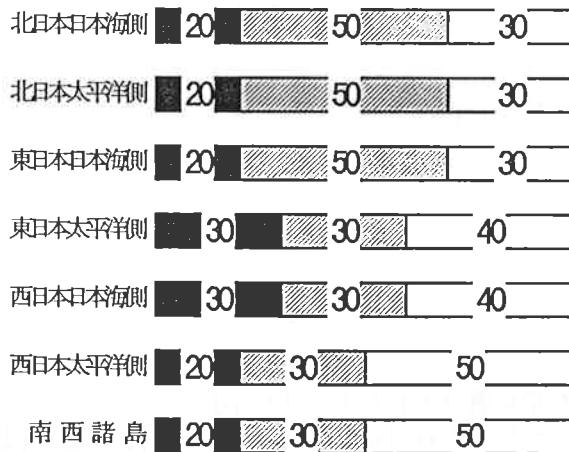
## [気温]



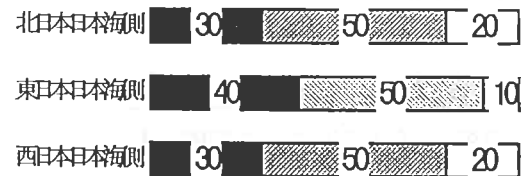
## [日照時間]



## [降水量]



## [降雪量]



気候の出現率 ■ 30 ■ 40 ■ 30

■ 低い(少ない) □ 平年並 □ 高い(多い)

向こう1か月の平均気温は南西諸島で高い可能性が、北日本、東日本、西日本では平年並の可能性が大きいです。

降水量は東日本太平洋側、西日本、南西諸島では多い可能性が、北日本、東日本日本海側では平年並の可能性が大きいです。

日照時間は、南西諸島では少ない可能性が、北日本、東日本、西日本では平年並の可能性が大きいです。

日本海側の地方の降雪量は平年並の可能性が大きいです。

## &lt;可能性の大きな気温経過&gt;

1 週目 (XX月XX日 (金) ~ XX月XX日 (土))

気温 北日本 低い  
 東日本 平年並  
 西日本 平年並  
 南西諸島 高い

なお、詳細については毎日発表される週間天気予報をご利用下さい。

2 週目 (XX月XX日 (金) ~ XX月XX日 (土))

気温 北日本 平年並  
 東日本 高い  
 西日本 高い  
 南西諸島 高い

3 ~ 4 週目 (XX月XX日 (金) ~ XX月XX日 (土))

気温 北日本 平年並  
 東日本 平年並  
 西日本 平年並  
 南西諸島 平年並

## &lt;天候の特徴&gt;

南西諸島では平年に比べ曇りや雨の日が多い見込みです。

## &lt;次回の発表予定&gt;

1 か月予報 毎週金曜日 14時30分 次回はXX月XX日  
 3 か月予報 XX月XX日 (X) 14時00分  
 寒候期予報

## 【参考資料 (「平年並」の範囲)】

向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の30年平均値 (1961~90年)

	気温平年差 (°C)		降水量平年比 (%)	日照時間平年比 (%)	降雪量平年比 (%)
北日本	-0.3 ~ 0.2	日本海側	90 ~ 112	92 ~ 108	88 ~ 116
		太平洋側	92 ~ 108	90 ~ 112	——
東日本	-0.3 ~ 0.2	日本海側	90 ~ 112	92 ~ 108	90 ~ 112
		太平洋側	92 ~ 108	90 ~ 112	——
西日本	-0.3 ~ 0.2	日本海側	90 ~ 112	92 ~ 108	92 ~ 108
		太平洋側	92 ~ 108	90 ~ 112	——
南西諸島	-0.3 ~ 0.2		90 ~ 112	92 ~ 108	——

## 週別の平均気温

	1 週目	2 週目	3 ~ 4 週目
北日本	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5
東日本	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5
西日本	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5
南西諸島	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5	-0.4 ~ 0.5

## 【参考資料（1か月予報利用上の注意）】

（1）気温・降水量は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3階級で予報されます。階級の幅は、1961～90年の30年間における各階級の出現率が30%：40%：30%となるように決めてあります。3つの階級の出現率がこれと同じものを”気候的出現率”として、予報の確率表現とともに表示してあります。

（2）確率は、予報した階級が実際に起こる割合（出現率）を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、6回が適中し4回が適中しないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には大きな確率（50%、60%など）や逆に小さな確率（10%、20%など）を付けられますが、予測資料の統計的な有意性が低い場合には気候的出現率（30%：40%：30%）と同じ確率あるいはそれに近い確率しか付けることができません。

（3）晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度の場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。

（4）「地方1か月予報」もあります。「全般1か月予報」は、全国的な天候の見通しに関するものです。それぞれの地方の予報については、地方毎に発表される「地方1か月予報」をご利用下さい。

見本

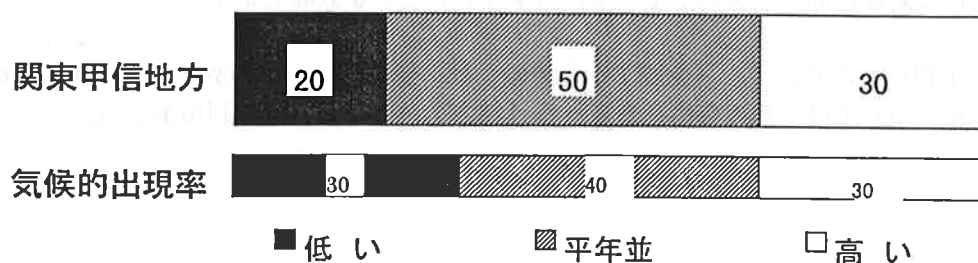
## 関東甲信地方 3か月予報

(4月から6月までの天候見通し)

平成××年××月××日  
気象庁 気候・海洋気象部発表

&lt;3か月(4～6月)の気温の各階級の確率(%)&gt;

[気温]



3か月平均気温(4～6月)は平年並の可能性が最も大きく、その確率は50%です。また、高い確率が30%で低い確率20%を上回っています。

&lt;可能性の大きな天候見通し&gt;

4月：天気は数日の周期で変わるでしょう。

5月：天気は数日の周期で変わるでしょう。

6月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

なお、3か月間(4～6月)の降水量は平年並でしょう。

要素	予報対象地域	4月	5月	6月
気温	関東甲信地方	平年並	平年並	平年並
降水量	関東甲信地方	平年並	平年並	平年並

&lt;次回の発表予定&gt;

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は××月××日

3か月予報：××月××日(××曜日) 14時

## 見本

【参考資料（「平年並」の範囲など）】

(1) 平年値（月・3か月平均気温，降水）

	平均気温（℃）				降水量（mm）			
	4月	5月	6月	4～6月	4月	5月	6月	4～6月
宇都宮	11.8	16.7	20.1	16.2	110	138	201	449
前橋	12.6	17.6	20.9	17.0	77	93	170	340
熊谷	12.9	17.7	21.1	17.2	86	107	170	363
水戸	11.6	16.3	19.5	15.8	118	139	175	431
銚子	13.0	16.8	19.4	16.4	128	141	174	443
東京	14.1	18.6	21.7	18.1	125	138	185	448
横浜	13.7	18.1	21.1	17.6	147	152	218	516
長野	10.4	15.7	19.6	15.2	61	79	136	276
甲府	13.3	17.8	21.3	17.5	85	86	150	321

\*降水量は小数点以下を四捨五入しています。

(2) 1961年～90年のデータに基づいた地域平均の気温・降水量の平年差（比）の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	4月	5月	6月	4～6月
気温	関東甲信地方	-0.2～+0.3	-0.5～+0.4	-0.5～+0.4	-0.3～+0.4
降水量	関東甲信地方	91～112	72～118	75～114	87～109

【参考資料（利用上の注意）】

(1) 気温・降水量は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3階級で予報されます。階級の幅は、1961～90年の30年間における各階級の出現率が30%：40%：30%となるように決めてあります。3つの階級の出現率がこれと同じものを”気候的出現率”として、予報の確率表現とともに表示してあります。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合（出現率）を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、6回が適中し4回が適中しないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には大きな確率（50%、60%など）や逆に小さな確率（10%、20%など）を付けられますが、予測資料の統計的な有意性が低い場合には気候的出現率（30%：40%：30%）と同じ確率あるいはそれに近い確率しか付。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1よりも多い（少ない）ことを意味します。

見本

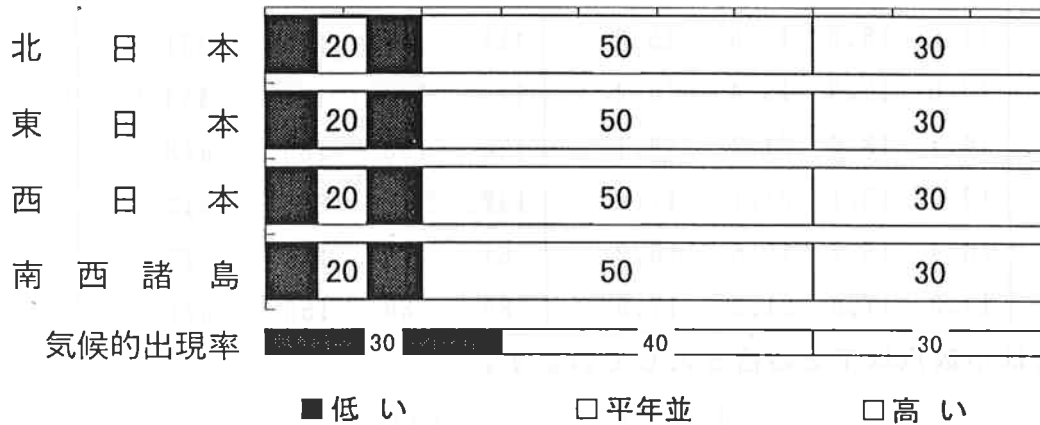
## 全般 3 か月予報

(4月から6月までの天候見通し)

平成××年××月××日  
気象庁 気候・海洋気象部発表

&lt; 3 か月 (4~6月) の気温の各階級の確率 (%) &gt;

[気温]



3 か月平均気温 (4~6月) は平年並の可能性が最も大きく、その確率は50%です。  
また、高い確率が30%で低い確率20%を上回っています。

## 見本

## &lt;可能性の大きな天候見通し&gt;

4月：天気は数日の周期で変わるとでしょう。気温は、北日本、東日本では平年並、西日本、南西諸島では高いでしょう。降水量は、南西諸島では少なく、北日本、東日本、西日本では平年並でしょう。

5月：天気は数日の周期で変わるとでしょう。南西諸島では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温、降水量ともに平年並でしょう。

6月：平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温、降水量ともに平年並でしょう。

なお、3か月間（4～6月）の降水量は平年並でしょう。

## &lt;次回の発表予定&gt;

1か月予報：毎週金曜日14時30分 次回は××月××日

3か月予報：××月××日（××曜日） 14時

## 【参考資料（「平年並」の範囲）】

3か月平均気温（4～6月）および3か月間降水量（4～6月）の「平年並」の範囲は次の通りです。

気 温		平年差 (°C)	降 水 量			平 年 比 (%)
北 日 本	-0.3～0.2		北日本・日本海側	90～112	太平洋側	91～108
東 日 本	-0.3～0.3		東日本・日本海側	85～107	太平洋側	89～111
西 日 本	-0.1～0.1		西日本・日本海側	87～112	太平洋側	92～110
南西諸島	-0.2～0.1		南 西 諸 島	88～114		

## 【参考資料（利用上の注意）】

(1) 気温・降水量は、「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の3階級で予報されます。階級の幅は、1961～90年の30年間における各階級の出現率が30%：40%：30%となるように決めてあります。3つの階級の出現率がこれと同じものを”気候的出現率”として、予報の確率表現とともに表示してあります。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合（出現率）を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、6回が適中し4回が適中しないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には大きな確率（50%、60%など）や逆に小さな確率（10%、20%など）を付けられますが、予測資料の統計的な有意性が低い場合には気候的出現率（30%：40%：30%）と同じ確率あるいはそれに近い確率しか付けることができません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の2分の1より多い（少ない）ことを意味します。